

産業用および発電用の大型ボイラーにおける化石燃料の消費量の削減(すなわち CO2 の削減)

(1) ボイラーに適用するための参考テスト例

「特殊な合成磁場の利用技術」を利用する事によってボイラーの燃料消費量を削減する方法では以下の (A) (B) (C) の 3 種類があります。

(A) 「特殊な合成磁場の利用技術」により処理された軽油および重油 A を利用する場合。

テスト例 (a) : 1

「第 2 章のテストデータ」の「第 1 1 節」を参照してください。

ボイラーのバーナーによる燃焼テストについて

A. ボイラーのバーナーにおける「E-オイル」装置による燃料消費量の減少率のテスト、

A-2. 燃料消費量の削減テストの結論

「E オイル」装置による燃料消費量の減少率は 10.9%です

テスト例 (b) : 2

「第 2 章のテストデータ」の「第 1 1 節」を参照してください。

ボイラーのバーナーによる燃焼テストについて

B. アルコールランプによる軽油の燃焼試験

B-2. テストの結論

上記の現象により、「特別な合成磁場の使用技術」によって処理される軽油の原子に誘導される磁気による電子エネルギーが軽油の燃焼においてリリースされて、新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーすなわち新しい未知の磁気による特殊な熱エネルギーになって、そして軽油の従来の燃焼の熱エネルギーに加えられたと考えらざるを得ない。

言い換えれば、上記の燃料消費量のデータは、従来のバーナーの燃焼において軽油に蓄積された新しい未知の磁気による特殊な熱エネルギーが生成されたことを証明している。

上記のテスト例 (a) : 1 とテスト例 (b) : 2 による結論

「特殊な合成磁場の利用技術」により処理された燃料油によれば燃料油に新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーすなわち新しい未知の特殊な熱エネルギーが発生する。

(B) 「特殊な合成磁場の利用技術」により処理されたボイラーの給水を利用する場合。

テスト例 (c) : 1

「第3章のテストデータ」の「第10節」を参照してください。

「E オイラー」装置と「トランスマスター」装置による特性変化と水と空気における効果について

H. テスト例 (8)

(h) 粘性が劇的に低下されている水に起因する強い浸透力と強い除去能力について
「特殊な合成磁場の利用技術」により処理された冷却水によると、熱交換器とポンプと冷却塔を連結するパイプの内部に付着した錆や固着物を除去し熱交換機の機能を回復させると共に更に沈殿物や嫌気性菌の粘着物や藻などの冷却水の流れの障害物質を一掃することによって冷却システムを回復することができる。

「特殊合成磁場の利用技術」により処理された管内の水中で発生する新たな未知の磁気による特殊な運動エネルギーに起因する分子運動により管内の障害物を除去することにより、排水管および排水システムを容易に復旧させることができる。

テスト例 (d) : 2

「第3章試験データ」の「第10節」を参照してください。

「E オイラー」装置と「トランスマスター」装置による特性変化と水と空気における効果について

H. テスト例 (9)

(i) 染料工場で使用されている高価なステンレス製の防水ボールベアリングの再生について

染色工場で使用される防水玉軸受の再生について

「特殊合成磁場の利用技術」に基づく「トランスマスター」装置によれば、水中で発生する磁気による未知の新たな特異な分子運動により、染色工場で回転する部品

にカルシウムが沈殿するために回転不能になりました高価な防水ボールベアリングの回転部分を再生することが可能である。

したがって「トランスマスター」装置はボールベアリングの再生装置としてすでに実用化されている。

上記のテスト例(c):1とテスト例(d):2による結論

「特殊な合成磁場の利用技術」に処理された水によれば水に新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーが発生する。

(C) 「特殊な合成磁場の利用技術」により処理された空気として利用する場合。

テスト例 (e):1

「第3章のテストデータ」の「第12節」を参照してください。

「特殊な合成磁場の利用技術」により処理された空気による「電磁空気清浄器」の特性と効果について

「電磁空気清浄器」の構成原理は基本的には「Eオイラー」装置と同様であり一対の磁石列から構成されている。

0. テスト例 (15)

(o) 「電磁空気清浄器」のシックハウスに対する効果について、

「特殊な合成磁場の使用技術」で処理された空気によって、空気に新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーが発生するためその空気に含まれる酸素分子の新しい未知の磁気による特殊な酸化機能により化学合成物質の強烈な刺激臭は分解され消臭される。

例えば殺虫剤と消毒剤と接着剤と殺菌剤から（例えばホルマリンとクレゾールとトルエンとシンナー）発生する強烈な危険な刺激性のにおいを持っているガスは、分解されて、除去される。

テスト例(f):2

「第3章のテスト・データ」と「第12節」を参照してください。

「特別な合成磁場の使用技術」によって処理される空気による「電磁空気清浄器」の特徴と効果について

R: テスト例 (18)

(r) 「電磁空気清浄器」による空気の特性について

特に、消臭剤メーカーの薬品倉庫で発生する刺激臭は、「電磁気式空気清浄機」によって初めて確実に消臭することができます。

すなわち、現在のところ、従来の消臭技術では不可能であった消臭については、「特殊合成磁場の利用技術」で処理されている空気によって確実に完全に消臭することが可能である。

上記テスト例(e)：1 とテスト例(f)：2による結論

新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーは、「特殊合成磁場の利用技術」で処理されている空気によって発生します。

特に、上述した空気中の酸素分子では、新たな未知の磁性による特殊な酸化機能が生じる。

(2) ボイラーへの適用

ボイラーには用途により以下の2種類がある。

(1) 軽油を使用する家庭用の小型ボイラー

「特殊合成磁場の利用技術」で処理されている軽油に発生する新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーに起因する新しい未知の磁気による特殊な熱エネルギーを使用する。

(2) 重油 A を使用した産業用および発電用大型ボイラー

特に、ボイラーの場合、重油 A と給水と空気の3種類の従来の物質の代わりに、「特別な合成磁場の使用技術」によって管理される「(A)重油 A」、「(B)給水」と「(C)空気」が、各々使われることができる。

「(A) 重油 A」について：上記テスト例(a)：1 とテスト例(b)：2

「特殊合成磁場の利用技術」で処理されている重油 A に発生する新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーに起因する新しい未知の磁気による特殊な熱エネルギーが発生し利用される。

特に燃焼炉全体の燃焼効率の上昇について

更に「特殊な合成磁場の利用技術」で処理されている重油 A の燃焼ガスには新しい未知の磁気による運動エネルギーが発生し燃焼ガスの粘性は劇的に低下し強力な浸透力が発生する。

従って、燃焼ガスが燃焼室の隅々まで侵入して燃焼室の内壁に付着した煤等が除去され、さらに煙道や煙突の内壁に付着した煤等が除去される。そのため、燃焼炉全体の排気抵抗が大幅に減少します。

そのため燃焼炉全体の燃焼効率を増大し燃料消費量を削減する事が出来る。

実際の例によると、車で「特殊な合成磁場の利用技術」によって処理される燃料油の使用以来1ヵ月後に、排気管の出口端部の内壁の上の付着物が排気ガスによって除去された状況は、直接視覚の点検によって確かめられます。

「(B) 給水」について： 上記テスト例(c)：1 とテスト例(d)：2

「特殊合成磁場の利用技術」で処理されている給水に発生する未知の新しい磁気による特殊な運動エネルギーが使用される。

ボイラ内で発生した加熱蒸気はノズルから蒸気タービンに導入され、蒸気タービンの出力は加熱蒸気に発生した磁気による新たな未知の特別な運動エネルギーによって増大される。

従って、蒸気タービンの出力を従来と同じ出力に設定すれば、燃費低減効果が生じる。

さてボイラーで給水を加熱するための熱エネルギーは主量子数で表される電子エネルギーであり加熱蒸気に発生する新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーは磁気量子数で表される電子エネルギーである。

したがって量子論の電子エネルギーの定義から両方のエネルギーは相互に干渉し合う事はなく独立して存在し発生する事が出来る。

上記の量子論の電子エネルギーの定義は「(A) 重油A」における自動車のエンジンのシリンダー内の超高温高圧の環境においても同様である。

「(C) 空気」について： 上記テスト例(e)：1 とテスト例(f)：2

空気に発生する新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーが使用される。

特に「特殊合成磁場の利用技術」で管理されている空気中の酸素分子に生じる新しい未知の磁気による特殊な酸化機能を利用している。

従来の空気による燃焼によれば燃焼室の内壁と隅に付着流の状態です不完全燃焼ガスが残存する。

一方、空気に発生する磁気による新しい未知の特別な運動エネルギーによって、空気の粘性が劇的に減するため、強い浸透力が空気に発生する。

したがって、磁気による新たな未知の特殊な運動エネルギーが発生する空気によれば、燃焼室の内壁や角部に付着流の状態で残留している不完全燃焼ガスが除去される。

加えて、化石燃料ガスは、発生した新しい未知の磁気による特別な運動エネルギーを有する空気および発生した新しい未知の磁気による特別な酸化機能を有する酸素分子によって完全に燃焼することができる混合ガスを形成することができる。

そのため、不完全な燃焼ガスは、新しい未知の磁気による特殊な酸化機能を有する酸素分子によって完全に燃焼される。

従って、燃焼ガスが燃焼室の隅々まで侵入して燃焼室の内壁に付着した煤等が除去されさらに煙道や煙突の内壁に付着した煤等が除去される。
そのため、燃焼炉全体の排気抵抗が大幅に減少します。

したがって、燃焼炉全体の燃焼効率を高め、燃費を向上させることができる。

以上から明らかに、「特殊合成磁場の利用技術」で管理されている「(A) 重油 A」と「(B) 給水」と「(C) 空気」を同時に使用することで、必然的に各燃料消費量の削減効果が発生して集約される。

したがって、特に「(A) 重油 A」と「(B) 給水」および「(C) 空気」を同時に使用した場合、燃料消費量の総削減量が最大となるため、その経済効果は大きい。

同時に、燃料消費を減らすことによって二酸化炭素 (CO₂) を減少させることができるので地球規模の気候変動は防止することができる、そして、不完全な燃焼によって引き起こされる有害な排気ガスを大幅に減らすことによって地球規模の大気汚染を防止することができる。

(3) 「特殊な合成磁場の利用技術」を発電用の大型ボイラーに実用するための課題について

さて、「(A) 重油」「(B) 水」「(C) 空気」を「特殊合成磁場の利用技術」で処理した技術は、基本的にすでに多くの試験で確立されています。

したがって今日では産業用及び発電用の大型ボイラーにおいても燃料消費量の削減を実現する事は基本的に既に達成し得る状況にある。

また「特殊な合成磁場の利用技術」を適用し十分に燃料消費量の削減を達成するための課題は「(A) 重油 A」や「(B) 給水」や「(C) 空気」の処理量を増大させ得る技術の開発だけである。

(4) 特に現在稼働中の石炭火力発電用ボイラーについて

特に石炭火力発電用のボイラーについては「(C) 空気」のみの改善であっても十分な効果が期待できものと考えられます。

「(C) 空気」の方法は世界中の化石燃料を使用する全てのボイラーには一定の燃料消費量の削減効果を確実に発生させる事が出来る費用対効果の最も大きい方法である。

その理由は「特別な合成磁場の使用技術」によって処理される空気が発生する新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーによる効果が発生する、そして、そのうえ、空気中の酸素分子に発生する新しい未知の磁気による特殊な酸化機能による効果もまた発生する。

また「特殊な合成磁場の利用技術」で処理された空気に新しい未知の磁気による特殊な運動エネルギーが発生しそのため空気の粘性は劇的に低下し強力な浸透力が発生する。

したがって、劇的に粘性が減少した空気がボイラーの燃焼室にもたらされる時、それは燃焼室内のあらゆる空間に拡散し燃焼室の隅部または内壁に残留する付着流の状態の不完全燃焼ガスを一掃する、そして、さらに、不完全燃焼ガスは空気中に含まれる酸素分子の新しい未知の磁気によって特殊な酸化機能によって再び燃やされることができる。

すなわち、従来の空気による燃焼室内での不完全燃焼の原因を除去し、化石燃料はほぼ完全燃焼されて燃焼効率が高まり、燃料消費量が減り、二酸化炭素（CO₂）の発生量が減るので、地球規模の気候変動を防止する事が出来る。

同時に、ボイラーからの不完全燃焼による有害な排気ガスを抑制することによって大気環境の汚染を防止することができる。

理想的には、「(B) 給水」と「(C) 空気」を「特殊合成磁場の利用技術」で同時に処理すれば、必然的に両者の効果が統合されるため、総燃料消費量の削減量は増大する。

完

2018年12月1日

米出達雄

